

道徳

人権尊重の精神 情報モラル（誹謗・中傷防止）

1年5組

授業者 百瀬 初江 G T メディア指導員

■道徳の時間における情報モラルの指導

情報モラルとは「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」ととらえることができる。道徳の時間においては、さまざまな問題の根底にある他者への共感や思いやりの心情を育てていくことに意義があると考える。人間としての生き方についての自覚を深めることを通して、情報社会の陰となっている部分に焦点を当てて指導していくことが重要と考える。

■ねらいとする価値

2-(2)は、自他に対して人間としての尊厳を大切にする自覚を深めることをねらいとしている。

ネット上の掲示板や書き込みなど、匿名性の高い情報のやりとりから起こる人間関係の負の影響について考えることにより、ネットの向こう側にいる相手に対する思いを深め、人間尊重の心情を育てていきたい。

■生徒の実態

本学級生徒の約30%が自分専用の携帯電話をもっており、ほとんどがメールを主として活用している。パソコンによるメールを加えると80%の生徒がメールを使っているのが現状である。

しかし、顔の見えない情報のやりとりが、場合によっては人間関係に大きな傷を残すことを、知識として理解している段階の生徒が大半である。

匿名のメールによるうわさが一斉送信されることもあった現状を踏まえ、共感的に指導していきたい。

■本時のねらい

自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であることを自覚し、ネットやメールなど匿名性の高い情報をよりよく活用しようとする心情を養う。

■本時の授業概要

メディア指導員から、インターネットの掲示板の書き込みを端に発した事件を提示してもらい、それについて、書き込んだ側と書き込まれた側それぞれの心情について考えさせる。具体的な事例を通して、生徒自身が自分の問題としてとらえることにより、内面の自覚をうながしていきたい。

学習活動	指導上の留意点
1.ネット上の掲示板を見て話し合う。 <ul style="list-style-type: none">いろいろな書き込みがある。自分も書き込みをしたことがある。	実際の掲示板の画面を提示し、自分たちの身近な問題であることを意識付ける。
2. DVD「学校裏サイトの闇」を視聴し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none">最初にサイトに悪口を書き込んだのは、どんな気持ちからだろう。これくらいなら構わないだろう。みんなもやっているから。相手にも悪いところがあるかも…徐々にエスカレートするサイトを見て、どんな気持ちになっただろうか。	メディア指導員から具体的な事例を基にしたDVDを提示してもらい、話合いの材料とする。 プロジェクトの画面に段階的な事例を提示していくことにより、内容が徐々に悪意に満ちたものになっていくことに気付かせる。
3.ネットいじめの問題について話し合う。 <ul style="list-style-type: none">このままではいけない。相手の気持ちを考えなくては…。自分がいじめの対象になるのは怖い。	匿名の無責任さをじっくり考えさせる。 送信されてくるいじめの画面を提示し、ネットいじめの対象となってしまった側の気持ちを実感できるようにする。
4.メディア指導員の話を聞く。	ネットの向こうにいるのも同じ人間であることを深く考えさせたい。 話し合いを通して、ネット上の匿名の言葉は、心の闇を生み出してしまうことを共感的に理解できるようになる。
	身近な問題として、自分の生き方を考えさせる。
	情報社会の一員として守るべきモラルについて生徒へのメッセージを話してもらい、価値の内面化を図る。